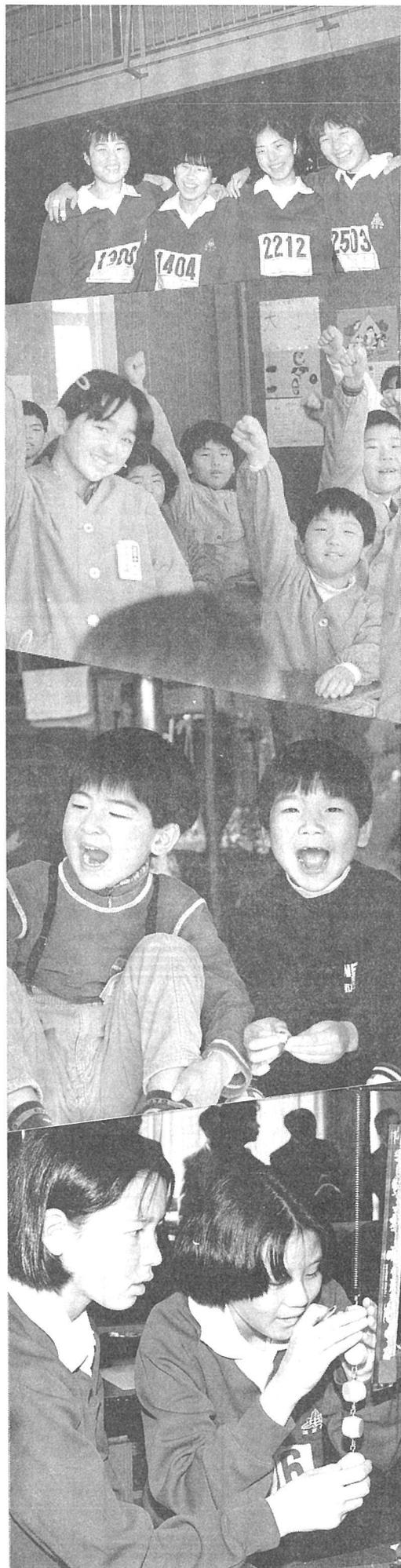


福島県PTA連合会会報
第41号_H08.02.20



平成8年度を飛躍の年にしよう



第41号

福島県PTA連合会

福島市黒岩字田部屋53-5

福島県青少年会館内

電話 (0245)45-5982

発行人 山岸 清

印刷 泉印刷所

電話 57-1071



福島県PTA連合会

この広報紙は各単
P3部〔校長(教
頭)、PTA会長(副
会長)、広報委員長〕
配布しています。

一九九六年が明けたと思ったら、学年末が近づいてきた。
卒業、就職、入学、転退職などのあわただしい春がもうすぐやってくる。
学校もPTAも、新しい組織でまた新たな一年がはじまる。
昨年は、学校五日制や国体など多忙な年であった。「いじめ問題など教育を取り巻く課題もつきない。しかし、しっかり地に足をつけ、一步一步考えながら充実した前進をしたいものだ。」

- 県連Pの八年度の行事も、総務委員会や評議員会を通してかたまってきた。(主な八年度の行事予定)
- 6・24 常置委員会、小中別懇談会 9・27・10・30 母親リーダーセミナー 10・18・19 第45回県連P郡山大会 11・26常置委員会 12・12新聞コンクール
- 2・5 安全互助会習字ポスターコンクール〔日P関係〕第44回日P名古屋大会(8・23・24)
- 第28回東北P青森大会(9・13・14) 日P表彰式(11・18)

年々増える 児童生徒の賠償 傷害事故

マンションの何階かから消火器が落ちてきた事故など、現代は思いがけない児童の傷害や賠償事故が多発しています。
「PTAの奉仕作業で草刈り機で大けが」などという単Pはありませんか。「PTA安全互助会に加入していて助かった」という声も耳にします。
表は平成7年の1月1日から12月31日の賠償・傷害事故の地区別状況です。児童生徒の加入はせめてB-2型に加入してほしい。未加入の学校にもぜひ紹介したいです。(担当/県P事務局・羽田・丹治)

福島県PTA安全互助会地区別事故状況 (H.8.2.1)

地区	区分	傷害事故件数	賠償事故件数
福 島		405 (1)	5
達 南		43	2
伊 達		159	3
安 達		250	2
郡 山		326	0
岩 瀬		155 (1)	0
石 川		77	0
田 村		172	1
西 白 河		188 (2)	0
東 白 川		79	0
若 松		100 (2)	2
北 会 津		76 (1)	0
両 沼		47	0
大 沼		44	1
耶 麻		115 (1)	1
南 会 津		61	1
い わ き		157 (1)	10
双 葉		158	2
相 馬		165 (1)	1
合 計		2,777 (10)	31

・ () は学童の死亡事故件数
・ 上記件数は、平成7年1月1日～平成7年12月31日までの発生件数

おめでとう！日本PTA表彰

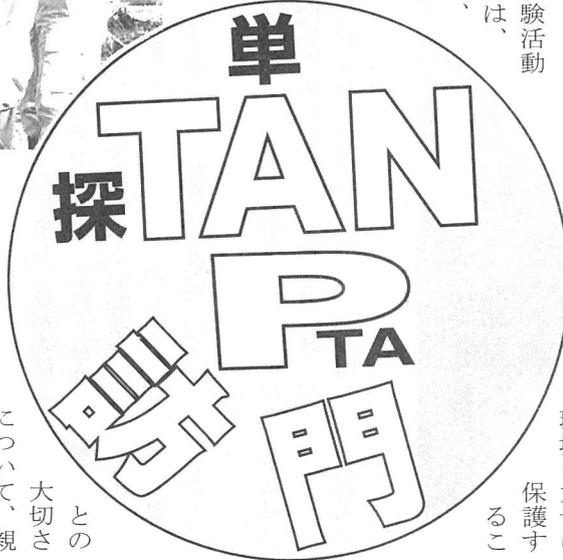
昨年十一月十八日、東京ホテルニューオータニにおいて「平成七年度優良PTAおよび功労者表彰式」が行われました。単Pほうもんでは、本県から日P全国協議会会長表彰にかがやいた三団体と文部大臣優良PTA表彰の小高町福浦小父母と教師の会の会長さんを紹介いたします。(表彰関係団体・個人名は四面参照)

PTA組織は、六つの専門委員会(文教・施設・厚生・給食・校外指導・養護教育)と一学年から六年生までの各学年委員会が構成されています。昨年度作成したPTAハンドブックを活動の方針として、各委員会毎に活発な運営が行われています。

今年度は、特に、給食委員会が「日本ベルマーク協会会長表彰」を受け、年度内に「グラントピアノを購入しよう」という共通の目標を掲げて、積極的に活動を展開中です。その他には、平成四年から六年までの三年間、文部省の学校週五日制の研究指定校として、月二回の土曜休業日に学校開放事業を催し、取り組んできました。この

自然体験と環境保護を重視 須賀川市立第一小学校 父母と教師の会

極的に活動を展開中です。その他には、平成四年から六年までの三年間、文部省の学校週五日制の研究指定校として、月二回の土曜休業日に学校開放事業を催し、取り組んできました。この



開放事業において特筆すべき点は、次の二点です。一点目は、自然体験活動の推進です。今年度は、自然保護活動として、学校林の下草刈りを親子で行いました。労働を媒体として、親と子が互いに触れ合いながら心地好い汗を流し、自然に親しみながら満

足した一日を過ごすことができました。二点目は、環境保護活動の推進です。今年度は、一月の冬空の下で野鳥観察会を開催しました。講師に日本野鳥の会の会員をお招きし、指導を受けました。観察を通して、野鳥の生態や野鳥が生きていく上

での大切な森林を守るためには、環境を大切に保護すること

この大切さについて、親子で野鳥を観察しながら語り合うことができました。

環境問題がさげばれてから、環境教育の実践校は多いと思います。が、子供たちだけの学校に終始せず親子の活動にまで発展してきた経過はとてすばらしいと自賛しています。これらの体験活動派、学校と家庭と地域の連帯感を高め、子供達

に豊かな心を育てる意味でも重要であると考えます。また、PTAの活動が、社会の変化に主体的に対応する資質や能力を子供に培う上からも大きなウェイトを占めていくものと思います。

多彩な学年親子行事

平田村立永田小学校父母と教師の会

「小規模校の特色を生かし、意欲的に活動するPTA」をモットーとして進めている本会の活動の一つに「学年親子行事」があります。これまで高学年にのみ限られていたこの行事を、全学年で実施することにしました。

休日に校外に出かけ、ふるさとの自然を満喫する「キャンプ」や「親子ハイキング」、バスを貸し切り一日をかけて体験する「親子スキー教室」、更には授業参観日にあわせて行った「親子料理教室」等々です。

本校は、児童数が九十五名。最少人数学級は八名です。どうしても活動に制約を受けがちです。そこで、これらの行事は役員会で、同一日に重複しないように期日調整をして実施しています。その結果、会員のほぼ百パーセントの参加を見ると同時に、兄弟姉妹がそろって参加するので、少数学級らしく盛況をみせてくれます。

子供が多い家庭では、負担加重になることも考えられますので、

計画立案から準備、後片付けまで、子供を主体とし、親はあくまでも脇役という気持ちで取り組むことにしています。子供達が生き生きと元気に活動している姿を見たり、「楽しかった



またやろう」という声を聞いたりすることが、私達にとっては何よりも嬉しく、この行事を進める大きな原動力にもなっています。最近では共働きの家庭も多くなり

親子のふれあいがなかなかできないという会員も多く、こういう機会を大事にしたいという意識の高さもあります。また、会員同士の交流、連携、協力体制も確立し、PTA活動そのものへの関心や意欲も高まっておりま。会員の減少をマイナスとするのではなく、一人一人の会員が本来のPTA活動のありかたを考えながら、少人数ならではの活動を、今後進めて行きたいと考えています。

手作り広報紙に熱中

白河市立白河第一小学校PTA

『明るく楽しいPTA』をモットーに、白河第一小学校PTAは、熱気ある活動を展開しています。その中の一つ、広報委員会の活躍を紹介します。

広報紙『連峰』は、現在九十七号まで発行されています。歴史と伝統のある広報紙ですが、少しずつ紙面にも変化が現れてきました。広報委員達は、その変化を自然なものとして受け止め、いつもフレッシュな気持ちで、紙面作りに挑戦しています。

年三回の広報紙発行のため、每学期三回程度の委員会が開催されます。一回目の企画会議の時は、午前十時から始まり、終了するのが午後一時を過ぎる程、時間を忘れての作業になります。けれど、毎回、十五名くらいの委員が出席し、熱気のある会議の気持ち良さを感じていきます。



載するコーナーを設けました。自分の文章が、活字になる快感を覚えてきた方、
「あの人も、こんな事を考えていたんだ。」
と、他人が身近に感じられた方など、予想を越えた反響がありました。

また、『学校へ質問』という欄には、学校に尋ねたい素朴な質問と、学校からの回答を載せています。広報紙は、学校と親のパイプ役にもなり、会員の意見発表の場にもなり、また、広報委員自身に、

鍛錬の機会を与えてくれる、大切な存在です。これからも、会員相互の研修をかさね、読者から愛される広報紙を作りあげていきたいと思っています。

ひと わが校の名物会長

小高町立福浦小学校
PTA会長
小林 正 人 氏



推薦した人
佐藤 信義 校長先生

町内PTA親善バレーボール大会においては、「昨年度準優勝だ、次は優勝するしかない。」と、今まで試みなかった練習に取り組み、見事優勝に導いたこともつい最近の事のように感じられる。興味は野球であり、中学校・高校と毎日のように野球をすることに喜びを感じながら、一時は甲子園をめざしたが、おしくも途中で敗退してしまった。この悔しさから、長男でもあることを忘れ、社会人野球にあこがれて毎日仕事が終わると、チームの誰よりも早くグラウンドに飛び出して行った。しかし、腰を痛めてしまい、残念ながら夢の球宴に出場すること

(福浦小学校長)

平成七年度 優良PTA・功労者表彰

- ◇ 文部大臣表彰 (県教育庁生涯学習課所管) 11/20ホテルオータニ
- 優良PTA表彰 小高町立福浦小学校父母と教師の会
- ◇ 県教育委員会教育・文化関係表彰 11/3 県文化センター
- 議会教育関係 (功労顕著な団体) (県教育庁総務課所管) 船引町立門沢小学校PTA 馬市立磯部中学校同 田島町立針生小学校同
- へき地教育関係 (県教育長義務教育課所管) 古殿町立竹貫田小学校父母と教師の会
- ◇ 日本PTA全国協議会表彰
- 団体 須賀川市立第一小学校

- 父母と教師の会 平田村立永田小学校同 白河市立白河第一小学校同
- 個人 津野英行 (会長・郡山) 大河内守夫 (副会長・安達) 峯田幸雄 (副会長・岩瀬) 安田好雄 (監事・西白河) 水口秀文 (同・大沼)
- 二瓶由美子 (母親代表・福島)
- ◇ 東北PTA連絡協議会会長表彰
- ◇ 福島県PTA連合会会長表彰に つきましては、前号で紹介いたしました。

第四十四回福島県PTA研究会は、昨年十一月九日〜十日、二本松市で開催されました。「未来を開く心豊かでたくましい子どもの育成をめざすPTAを創造しよう」のテーマのもと、各郡市連Pから多数の会員が集い、七分科会に分

か。石沢実行委員長「大会を終えた今、私たちにとつての意義はどこにあったらうかと考えています。それは『連帯』の確認だったような気がします。同じ世代の子供たちを持ち、あ

り、あつた。役員としての思いです。参加者の皆様には大会で得たものを『情報運用』という形で各単Pの活動に活かしていただければ幸いです。」

役立てたのではないと思いません。参加者の皆様には大会で得たものを『情報運用』という形で各単Pの活動に活かしていただければ幸いです。」

役員としての思いです。参加者の皆様には大会で得たものを『情報運用』という形で各単Pの活動に活かしていただければ幸いです。」

ふりかえって

かれて研修を深めましたが、大会運営のご苦勞や反省を、石沢孝実行委員長と須賀紀一事務局長(二本松第一中学校長)にお聞きしました。

——二本松大会 本当にご苦勞さまでした。無事終了してのご感想はいかがです

また、PTAに限らず組織にとつては『情報を調達すること』そして『情報を運用すること』が活動の要素の一つだと考えます。大会の『情報調達』にささやかながら

て多くの関係者のご協力に支えられ、責任を果たすことができました。ことに、心より御礼を申し上げます。と思います。そして、安達地区の実行委員の方や係員の皆さんの熱意と一丸となつての取り組みが『心あたたまる大会だった』等の評価をいただいたものと感謝し

ております。このパワーを今後の活動にも活かしていただきたいと思っております。——国体と重なつて期日や会場についてもご苦勞があつたでしょうね。須賀事務局長「国体のほか二本松の場合菊形展との関係もあり例年より一ヶ月遅らせての開催となり、心配したのは寒さでした。雪までは予想しなかったのですが、いろいろとご苦勞をかける結果となつてしまいました。また、学校関係の各種行事と重複することとなり、その調整や同時開催などで迷惑をかけたことと思います。ただ、国体で使用したプレハブ施設や看板、プラカードなど多くの備品を借用することができ、経費的には大変助かりました。」



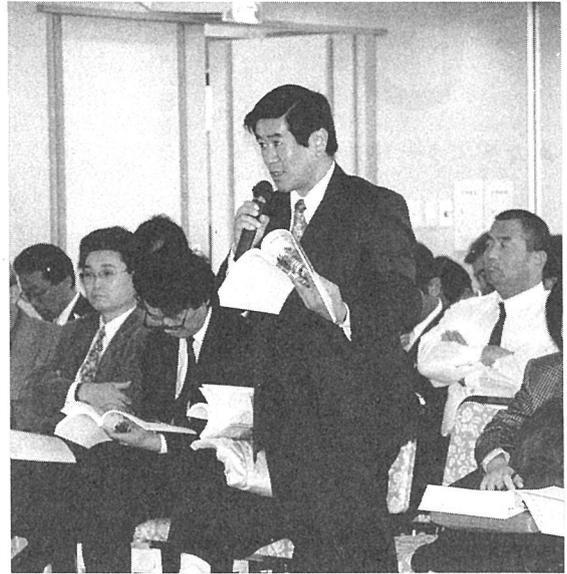
須賀紀一
二本松大会事務局長



地域が持ち回りに決められることが多く、提言内容が学校の実践と研究の視点と一致しないむきもあることから、分科会内の二つから三つの視点の中から実践により近い視点を選んでいただくようにしました。

実施してみて、家庭教育分科会については良かったという意見が多くみられたが、提言の仕方につ

第44回県大会を 二本松



いでは今後さらに検討を要すると思いました。

分科会の会場については、人数の割には手狭な会場もありご迷惑をかけました。ただ会場の都合もあり人数の割り当てをしているのでできるだけ割り当て人数を守っていただけだと思います。

このような中にもかかわらず、どの分科会でも熱心に協議する姿が見られ感動させられました。提言者をはじめ関係者のご努力の賜と感謝しております。

——中村メイコさんの「私の行き方」と題した講演などについて



石 沢 孝
二本松大会実行委員長

石沢実行委員長「講演会は市民の皆様にも解放しましたし、PTAの研修旅行で来た学校があつたりして盛況でした。内容も実体験からの話で、子育て真つ最中の会員には好評だったようです。

講師の選定にはいろいろな要望があり頭を悩ます部分です。芸能人の場合、当日になって細やかな

それでは、これらのことをどこで、どのように研修するのが課題である。学級や学年PTAで対応した方がよいものや、委員会での対応、全会員での対応等々、課題によって場と機会や方法を決めるようにする。それも父母主体で進めることが肝要である。

また、研修課題の設定過程を大切にしたい。自分たちの研修という自覚は、ここから生まれるからである。さらには、広報の仕方の工夫である。魅力ある開催案内と不参加者への実施結果のお知らせを必ずするようにしたい。

終わりに、さらなる活性化のために、その都度反省(評価)をし、それを次回に生かすことである。

(県連P・研修部長)

要求があつたりして担当者はなにかと気を遣つたようでした。

アトラクションに提灯祭りをそのまま持ち込むことはできませんでしたが、できるだけ情景を味わっていただけのように工夫しました。しかし、所詮限界があることです。ぜひ十月四日の実物を観に来て下さい。お待ちしております。

——今年は、第四十五回大会が郡山で開かれます。アドバイスを

石沢実行委員長「企画から開催までになんと細部までのチェックが必要なものかというのがやってみての実感です。これは実行委員会の連携をいかに緊密に進めるかが鍵だと思ひます。

私たちは、内容や運営について基本的には近年の大会の流れに沿つて開催しました。しかし、大会の在り方についての考え方も様々です。実行委員会は実質二年度にわたる訳ですから方針を確認してスタートする必要があります。

研修と情報交換の中にも、交流を深め『楽しいPTA』を目指す大会となるよう期待しています。

須賀事務局長「次期大会開催本당にご苦勞様です。できれば、いま求められている『心の教育』『生き方教育』についての家庭や地域と学校の連携を実質的に討議する場を設けていただければと思います。

——盛会をご祈念申し上げます

——ありがとうございます

論壇

PTA研修 の活性化



福島市立清明小学校長 小 松 榮

各PTAでは「父母と教師とが協力して、家庭と学校と地域社会における児童・青少年の健全な成長をはかる」ことを目的とし、組織を通していろいろな活動を進め、成果を上げているところである。

小学校では、教養・広報・健全育成・厚生等の活動が中核であり、中学校では、それに進路対策が加わっている。これらのことから、子供たちの健全育成、父母の研修と親善、父母と教師との連携等に関する活動が実施されていることが分かる。

しかし、これらの活動に、会員がどのくらい関わっているかを見ると、各PTAとも心許ない実態にあるようである。如何に多くの会員の参加を得るかが課題である。

その解決には、参加できない会員、しない会員の背景を考察したり、魅力あるPTAの創造を目指す方途を探ることである。

学校教育に対する父母の関心の

さて、PTAの研修内容の中心は、子供の健全な成長を図るために、親としての資質の向上を図ることである。他に、今日多くの課題(例えば、いじめ、新学力観と

高さが極めて高いことは、授業参観への出席率で判断できる。それは、我が子への関心があるろうが、それを学級、学年、学校全体へと広げていくことが、学校とPTAの役割である。

抱えている学校教育についての理解と、親やPTAとしての対応、また、親としての子供のよさをどう伸ばしてやるか、子供の育つ環境をどうするか等数多い。

第19回 子どもの 災害 事故防止 コンクール

すばらしい
作品
4,157点

第19回子どもの災害事故防止習字・ポスターコンクールの審査は去る二月五、六日行われ、優秀作品が決まった。今年は習字二〇三校から三、五八七点、ポスター一九一校から五七〇点の応募があり、審査には、次の各氏があたった。

(敬称略)

《習字》鈴木幸子(蓬萊小教諭) 桑原兵永(元荒井小学校長) 小田雄(元野田小学校教諭) 《ポスター》力丸毅(元福島四中校長)

紙面の都合上、一部しか掲載できませんが、過日、新聞紙上でくわしく報道されました。また、四

たべこう一

▲ たべ こう一 (勝常小1年)



▲ 佐藤菜央 (岡山小5年)

月の「安全互助会報告書」で最優秀賞から佳作まで全入選者氏名をお知らせします。

ポスター

▼小学校

◇最優秀賞 佐藤達也(柏城小一年) 桑名敬太(柏城小二年) 大沼万里子(御厩小三年) 大隈祐輔(岡山小四年) 佐藤菜央(岡山小五年) 大槻映里(岡山小六年)

◇優秀賞 安斎貴寛(須賀川二小一年) 安部奈々子(金房小二年) 富永みのり(小田倉小三年) 渡辺

安全

平館 祐佳

▲ 平館 祐佳 (二本松北小5年)

垂弓(大島小四年) 渡辺 拓(岡山小五年) 大槻恵美(岡山小六年)

▼中学校

◇最優秀賞 笹川聡美(いわき泉中一年) ◇優秀賞 渡辺久美子(稲田中一年)

習字

▼小学校

◇最優秀賞 たべこう一(勝常小一年) くし田 ゆきかず(泉小二年) 猪股亮博(福大附属小三年) 安田美紀(小名浜一小四年) 平館祐佳(二本松北小五年) 小山琴世(謹教小六年)

◇優秀賞

さかがみ みずほ(蓬萊小一年) うすいのりゆき(福大附属小一年) わたなべ えみ(会津東山小一年) 佐藤亜希也(福大附属小二年) 大沼さとみ(謹教小二年) さくま こずえ(美山小二年) 飯沼由衣(梁川小三年) 大橋靖子(大石小三年) 斎藤亜弓(保原小三年) 古市幸士(下関河内小三年) 長嶺雄介(東尾岐小三年) 館さやか(福大附属小四年) 羽田隆太(杉妻小四年) 郷麻衣子(五箇小四年) 深谷のぞみ(五箇小四年) 国兼瑛士郎(いわき・鹿島小

栄光

青砥恵子

▲ 青砥 恵子 (矢祭中1年)



▲ 笹川 聡美 (いわき泉中1年)

躍進

白河中央中 生出のぞみ

▲ 生出のぞみ (白河中央中3年)

◇優秀賞 野田由美子(松陽中一年) 野田時子(松陽中二年) 宍戸千都子(福島二中三年)

〔審査評から〕

子どもたちのすばらしい筆力に驚かされてしまいました。毎年、力が向上し、本大会も19回を数え意義深いものを感じます。

小学生とも、習字は練習と努力の跡がよくわかりますが、基本をもっと学んでほしいと思います。ポスターは、子どもたちの豊かな感性と色調が見事でした。文字や絵の中にある意味を十分に理解させたいと感じました。

近年子どもがいたましい災害事故は増え続けており、各単Pの安全指導や事故防止の啓もう活動として役立ててほしいと願っています。

心に止めてほしい。絵や文字が訴えるものを!

PTAの課題

笹谷小校長 渡辺 宗孝



これまで五年もの間、会計部門に関わりを持ったわけでありますが、その間、四人の会長さんとの出会いや、福島市で東北PTA研究大会を成功させる姿など、貴重な体験を、感謝しながら、振り返っております。

また、教育を学校サイドという

「警梯青年の家での二泊三日の研修会に参加出来ますか？」のお誘いに、家族の（夫の）了解が得られるかしら？と一瞬頭を掠めました。家族は、興味を誘われた私の気持ちを理解したのかそれとも諦めか、とにかくI期のフレッシュセミナーという男女共同参画推進のためのアドバイザー養成研修会に参加することが出来ました。まったく知らない人とのふれあいに期待と不安を抱きながら――。

「女と男のいい関係をめざして」福島大行政社会学部教授の栗原るみ先生の女性問題の講義に始まりパネルディスカッション、グループ討議「ジェンダー」による固定

内側からのみ見てきたものにとつて、外側より、客観的に見る機会ができたことは、学校を経営する立場からも、大変役立つものになったように思い返しています。

ただ、わずか五年と言う期間に、様々な教育問題に振り回されたように思います。それは、週休五日制の開始、業者テストの廃止、不登校児の激増、死に至らしめる陰湿ないじめ等々、教育現場の課題として、対応の難しいものばかりであります。あたかも、経済界の教育の歪みが一気に、表出したかのように、出口の見えない難題を抱えたと言わざるを得ません。

二十一世紀に向け、諸現象を生

概念からの打破のための学習及びグループワークの学習プログラム作成等、講義あり、演習あり、レク実技等と内容豊富なIII期にわ

間を過ごすことが出来ました。III期の時にはこのグループでの交流会もあり、グループごとテーマを決め多彩なアイデアで設定



男女共同参画

アドバイザー養成研修会に参加して

浜地区母親代表
平三中・日P評議員

佐藤 暁美

されたティーパーティーとなり楽しい一時を過ごすことも出来ました。グループでの話し合いでもそうでしたが、固定的役割分担の中で

済的にも精神的にも自立し、それぞれの分野で能力を活かすことが出来るよう次の世代を育てていく必要があります。この研修会の参

県連Pの役割

松陵中校長 関 廣之



み出した子育ての病理にメスを入れ、対処療法へのあがきから脱却し、「子ども観」を再吟味しながら、バランスの取れた教育を目指す、新しいPTA活動へ移行していくことを望んでいます。

（県連P・会計部長）

県連Pにお世話になり二年間が過ぎようとしております。この間須賀川・二本松での県大会や東北大会・全国大会に参加させていただき、熱気あふれる発表や意見を聞き、発足以来脈々と続いているPTAの大きな存在を改めて実感しました。

今、小・中学校教育は五日制や高校入試改善、新しい学力観と大きな転換期を迎え、さらに「いじめ」「不登校」などの問題が多発しており、学校が抱える教育課題は山積みしています。

社会情勢も日々変化し、子供や親の価値観も変わってきている現代、PTAの役割はと考えている現

と、子育てに過保護と放任があり過保護は生きる力も社会性も育たず、放任は本能的に生きる力は強くなるが、善悪の判断力が無くなるという問題もある。中庸をいこうという問題は難しいがPTA活動は学校主導でも、生徒主導でもないかと思う。

PTA活動の基本は、子供を守り育てるための家庭教育力の育成である。子は親の姿を見て育つ、親の生き方が何より大切なのではないか、そのためにはどうすればよいか今後のPTA活動の課題ではないでしょうか。

県連Pの充実発展を望みます。

（県連P事務局長）

加を機に男女共同参画、ジェンダーフリー、パートナーという言葉に

フリー、パートナーという言葉に ついても考えるようになり、家庭の中でお互いが個として尊重し合 い、パートナーとして家庭の責任 を担っていくよう理解し合うべく 努力をしなければと思っています。 また自分の置かれた立場において 出来ることから始めていかなければ――。

PTAという組織の中でも固定化 されている役割分担をはずし、女と 男のいい関係を築いていくために、 私たち女性が常に学習し、エンパワ ーメントの風を吹かせ、共に活動出来 るよう意識の変革が必要な時に来て いるのではないのでしょうか。

風吹き込み伝統を創る

第31回 県PTA広報紙コンクール

第三十一回県小中学校新聞コンクール(県PTA連合会、福島民友新聞社主催)の審査が終了し、PTA新聞の部、学校新聞の部を合わせて23点の入賞が決まった。

いじめや登校拒否など教育の諸問題解決にも、地域の教育力の活性化の役割をになう広報活動の意義は大きい。今年も昨年の30回記念大会を上回る百六校からの応募があり、PTA会報の入賞作品は全国小中学校広報紙コンクール(日本PTA全国協議会主催、文部省後援)に出品される。入賞作品欠の通り。

「PTA会報の部」

- ▽最優秀賞 二すかけ(植葉北小 PTA) けやき(郡山六中同) ▽最優秀賞 二こだま(保原小 PTA) 行健(行健小同) はばたき(一箕小同) 山なみ(新鶴小同) はぐるま(桃陵中同) ▽入選 おおぐわ(奥川小 PTA) きくた(菊田小同) ちかつ(近津小同) ひばり(原町二小同) 北星(須賀川二小同) ひらの(平野小同) たてやま(須釜中同) 坂道(福島四中同) 若あゆ(浪江中同)

「学校新聞の部」

- ▽最優秀賞 二学校だより「東山」(東山小) ▽優秀賞 二稲田小だより(稲田小) 第二学年通信「学年だより」(浅川中第二学年) ▽入選 二学年だより「たいようのこ」(川俣南小第

一学年) 向山(松陵中) 一年一組 学校新聞(稲田中一年一組)

審査評から

〈敬遠される広報委員〉
「PTAで広報委員に当てられなかったの。私にできるかしら。」



体を動かす方の厚生や環境なら何とかなるんだけど

四月の最初の参観日のころ昇降口を通りかかると、こんな声が聞こえてきます。でも、ぜひ挑戦してほしいと思います。

〈広報紙はひとつの学校文化〉

学校には、予算や組織に限りがあります。年に数回

発行される紙面を見て、その優秀を決めるのは難しいことですが、長い間の積み重ねが学校の文化や伝統を築き、それが地域の中に自然に浸透していくことを強く感じさせられました。

新しい広報委員は、先輩の作った新聞を参考に紙面を作ります。



今こそ

連帯感深める広報活動を!

広報の経験を生かして中学校でも活躍し、地域社会でもそれを生かすなど相関的によい影響を及ぼしていくのです。

〈さすが入賞作品〉

PTA新聞の部では取材や編集の際の練り上げの段階をとっても大切にしています。テーマを基に、特集記事を組む前に、何のためのアンケートか、どういう問題が提

〔写真「すずかけ」参照〕
〈読者との信頼関係が大切〉

また、学校(学級)新聞の部では、ユニークな題名の中に、教師と子供たちの交流が継続的につづけられたものがあり、校長先生や学年の先生の真しな教育実践に心うたれました。〔写真「東山」参照〕
いづれも児童、保護者の信頼関係に裏づけられた、読み手の励みや期待があればこそ発行回数も自然に増していくのでしよう。
子育てにつな

起され、どう考えるかを検討しています。全員がカメラを一台ずつ持参して取材に出かけ、できるだけ多くの顔を載せようとしたり、「つなげて、ひろげて地域の輪」と題したりレリー式の人物紹介記事や一面新聞題字まで子供たちの手書きで飾ったりしています。

がる情報や友達・先生などの身近な話題は、みんなの関心事です。読者の信頼をかちとった一枚の広報紙は、学校やPTAにさわやかな風を吹き込み、長い間の積み重ねが、学校文化の礎(いしずえ)となっていくものと信じます。

後記

▼三寒四温をくりかえして春が届く。厳しい冬こそ、百花繚乱(りょうらん)の季節がまちどおしく感じられる。▼国体を終えた今年、県もまた新たな課題にむかって動き出した。うつくしま博覧会首都移転など。▼教育の課題も山積みしている中で、手をこまねいてばかりはいられない。新年度にむけて、着実に力を合わせて実践していきたい。▼40号記念号のつみのこしがあり総花的な紙面になったが、各単Pが新しい年にむけて総力を結集していくための手がかりになればと願っている。
(真砂女)